

令和6年度 京極町立京極小学校 学校経営方針（案）

R6. 2. 16

京極町の目指す子ども像(京極町教育行政執行方針)
 ふるさと京極の未来を思い、語れる子

1. 学校教育目標

〔全体目標〕

◎進んで心と体をきたえる子の育成

学校教育目標	目指す子ども像
【知】自ら考え 努力する子	自分で考え、表現し合って高め合う子
【徳】思いやりを持ち 協力する子	おたがいに認め合って協力できる子
【体】体をきたえ 行動する子	自分の体力に興味を持ち、高めようと取り組む子

2. 目指す学校像

誇れる学校

- (1) 子どもにとって、よさを認められ、居心地がよく、安心して自信を持って活動できる学校
- (2) 保護者（地域）にとって、愛情を持ち親身になって子どもに接してくれ、子どものよさを引き出し、伸ばしてくれる学校
- (3) 教職員にとって、働く喜びと自己が高まる喜びがある学校

3. 経営・運営の基本方針（いつも心にとめておきたいこと）

- ◇子供中心・子供重視（子供の安心・安全）
- ◇授業が生命線
- ◇組織的な運営・組織的な教育
- ◇特別支援教育の視点での支援・指導
- ◇親身な保護者対応
- ◇学校・教職員の望ましい社会性

4. 育てたい資質や能力

「育てたい資質・能力」の重点を設定する。「育てたい資質・能力」は、現在の学校教育の大きな目標である。教育活動の全てがこの資質・能力の向上につながるよう整えていく。全教育課程において、これらの資質や能力の向上とのつながりを位置づけ、明確化して取り組んでいきたい。

	「育てたい資質・能力」の重点
知識・技能	○文章をスムーズに読むことができる。〈読む〉 ○わかったことをまとめて書くことができる。〈書く〉 ○ICT機器の使い方がわかり、正しく使うことができる。
思考力・判断力・表現力	○順序よく説明することができる。〈説明する〉 ○友達に聞いたり答えたりしながら学ぶことができる。〈学び合う〉 ○ICT機器を状況に合わせて適切に使うことができる。

学びに向かう力・人間性 その他習慣	○「得意」「不得意」等、お互いに異なることを理解し合って協力することができる。＜苦手を理解し合う＞ ○発達段階に応じた家庭学習ができる。＜家庭学習＞ ○落ち着いたあいさつができる。＜あいさつ＞ ○自分の健康や体力について知り、改善や向上に取り組もうとすることができる。＜体力向上に挑戦＞
----------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5. 経営・運営の重点（力を入れて充実・向上させたいこと）

【育てたい資質や能力】を育てるために、これらの重点を設定する。

- (1) 温かい学校・温かい学級づくり
- (2) 具体目標の達成に向けた各部の主体的な取組
- (3) 教師力・組織力の向上を図る研究・研修
- (4) ICTの活用推進
- (5) PDCAサイクルの確立とカリキュラムマネジメント
- (6) 異校種・地域・保護者との連携
- (7) 学校における働き方改革

(1) 「みんなたいせつ」を合言葉にした温かい学校・学級づくり

児童・教師・保護者共通のテーマ

【みんなたいせつ】京極小

- ◇温かい学校・学級づくりをすべての教育活動の基盤とする。
- ◇「たいせつ」という言葉を、教育活動に積極的に取り込み、児童、保護者に浸透させる。
- ◇テーマの実現に向けて道徳教育、特別支援教育の重点を次のようにする。

＜『道徳教育』の重点＞

「ひとりひとりのちがいを認め合うあたたかい関係づくり」

観 点	実践事項
○今年度の重点 ※道徳科内容項目の標語から、 <u>＜個性の伸長＞</u> <u>＜礼儀＞</u> <u>＜相互理解・寛容＞</u>	◇道徳科の複数回授業 ◇学級経営の柱としての位置づけ ◇道徳教育推進教師が中心となった計画的な育成 ◇道徳科の授業研究 ◇いじめアンケート、QUの活用

＜特別支援教育＞

観 点	実践事項
○教育活動の充実	◇通級指導教室での指導の充実 ◇定期的な子ども支援委員会と情報交流会 ◇特別支援教育に関する研修 ◇教師間での日常的な情報交流
○保護者との連携	◇日常的な情報提供 ◇定期的な保護者面談

(2) 具体目標の達成に向けた各部の主体的な取組

知・徳・体の3観点で表された学校教育目標を受け、それらが達成されているかを評価する指標として、具体的な数値目標を次のように設定する。

また、それらを達成するために分掌部会が主体的に手立てを企画・推進する。

	資質・能力育成につながる具体目標	主な手立て	中心組織
知	標準学力検査（CRT） 全学年・全教科「全国平均以上」または「全国平均との差の縮小」	○資質・能力を育てる授業づくり ○T T・習熟度別指導 ○放課後・長期休業中の個別指導 ○ICTの有効活用 ○宿題・じぶん学習の継続 ○毎日の「鍛え」の積み上げ ○キャリア・ノートを活用	まなび
徳	児童アンケート 「京極小学校は、思いやりがあって、協力できる学校です」への肯定的な評価 95%以上	○教師の積極的な認め・褒め ○「考え話し合う」道徳 ○道徳科の参観日公開と研究授業 ○児童会主催の「ありがとう運動」 ○QU等、実態調査と教育相談	こころ
体	体カテスト 重点項目において、全学年「全国平均以上」または「全国平均との差の縮小」	○体育での重点項目継続強化 ○なわとび記録会 ○ジュニアマラソン大会 ○体力測定広場 ○2度の体カテスト	からだ

(3) 教師力・組織力の向上を図る研究・研修

①授業研究の方向 ※教科だけでなく、特別活動等全教育課程における指導に。

ア. 目指す授業

子供に感じさせ、考えさせ、学び合わせる授業

イ. テーマ：①「学び合いをどうつくるか」

②「ICT機器をどう活用するか」

②教職員の資質・力量の向上

観 点	実践事項
○「支えるプロ」として専門性を高める取組	◇「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた校内研究 ◇新しい研修制度の趣旨に沿った実施 ◇特別支援教育の観点を生かした教育活動の研修 ◇道教委、研修センター等主催の研修会の参加 ◇実践発表会・研究発表会への参加
○社会人として、よりよい意識・行動への努力	◇社会的な話題や法規資料を活用した不祥事防止の研修 ◇「社会人として望ましい習慣」の確認 ◇自家用車愛好会の設置等交通違反・事故防止活動 ◇不適切事案防止に関する校内要領等の整備

③校内研修として実施したい主要内容

○課題解決的な学習の充実 ○特別支援教育 ○不祥事防止 ○ICT活用

(4)ICTの活用推進

学力向上はもちろんのこと、コロナ禍の対応、働き方改革にICTの有効活用が求められている。学校全体のシステムや使用方法などの整備を組織的に進める。

①授業改善

②オンラインを活用した学習指導

③学校における働き方改革

(5)PDCAサイクルの確立とカリキュラムマネジメント

観 点	実践事項
○学校全体のPDCAサイクル確立の取組	◇年2回の自己評価 ◇教育課程に関する自己評価項目の見直しと整備 ◇各行事に関する迅速な自己評価

○各部におけるPDCAサイクル 確立の取組	◇各部、知特体における年間教育計画 ◇各部ステップアップ計画 ◇評価項目、評価方法の整理
--------------------------	----------------------------------------------------

(6)異校種・地域・保護者との連携

観 点	実践事項
○異校種・地域・保護者との連携を 促進する取組	◇町教研の活動による小中連携を「小中一貫」へ ◇中学校教員による乗り入れ授業 ◇いつでも参観日の意識 ◇学校評価での意見収集と結果公表 ◇学校だより、学級だより等での情報発信 ◇地域の教育力の積極的活用 ◇コミュニティスクール制度の活用 ◇防災教育の充実と安心・安全メール ◇キャリア・ノートの活用
○地域の教育資源の見直しと積極 的な活用	◇地域の資源を生かした体験的な学習の活性化 ◇外部人材・地域人材の活用

(7)学校における働き方改革

観 点	実践事項
○教職員の健康を保ち、児童との 関わりの質を高めるための時間 の生みだし	◇変形労働時間制・週休日の振替等制度の活用 ◇校務支援システムの有効活用 ◇学校閉庁日の設定 ◇年次有給休暇年5日以上取得の計画作成 ◇効率化への更なる検討（ワークショップ等） ◇定時退勤日の設定（時間を意識した業務推進）